

JDDネット滋賀における発達障害児者支援活動を考える

～ 相談、就労、研修事業等からの検討 ～

企画者	： 藤井 茂樹	（滋賀医科大学）
	： 鈴木 正樹	（JDDネット滋賀）
司会者	： 鈴木 正樹	（JDDネット滋賀）
話題提供者	： 上杉 晴美	（滋賀LD研究会）
	： 脇阪 恭明	（JDDネット滋賀）
	： 藤井 茂樹	（滋賀医科大学）
指定討論者	： 宇野 正章	（パームこどもクリニック）
	： 下村 雅昭	（京都女子大学）

1. 企画趣旨

NPO法人JDDネット滋賀は、発達障害のある人およびその家族に対して、発達障害のある人が自立して生活するために必要な支援や、発達障害に関する啓発活動を行うことにより、地域と社会の福祉の増進を図り、広く公益に貢献することを目的として設立した。活動事業は、発達障害のある人やその家族が、お茶を楽しみながら気軽に情報共有や悩みを話し合える場所としてのコミュニティカフェ、「ほっとSPACE草津」の運営、相談、研修等である。その中で、特にコミュニティカフェの運営が厳しく、運営費の調達に理事会が苦慮している状況である。このコミュニティカフェは、発達障害のある当事者の就労体験の場であり、また当事者やその家族の憩いの場でもある。研修事業では、保健、福祉、教育、労働、医療等の担当者、保護者への研修を年に数回実施している。相談事業では成人の相談が多く、その内容も厳しく、すぐには解決できないことのほうが多い。教育では、特別支援教育が完全実施され6年目になり、福祉の関連法律も改正されたが、発達障害児者の状況が良くなったとは言い切れない。

本シンポジウムでは、JDDネット滋賀ができる発達障害児者支援の在り方を、今まで取り組んできた事業を振り返り検討したい。特に、就学前、義務教育段階、高校、大学でやるべき事、子育ての在り方を討論する中で、安定した発達障害者就労に向け議論を深めたい。

2. 話題提供

(1) 上杉 晴美(滋賀LD研究会) 「滋賀LD研究会の取り組みとJDDネット滋賀」

滋賀県LD教育研究会は、県内の発達障害の子どもたちへの学習や生活での対応の在り方を研究している。そして、これらの子どもたちが少しでもスムーズな学校生活を送れることを願って、滋賀県内の教員、医療、療育、福祉関係者、院生等が、滋賀県LD親の会(トムソーヤ)とタイアップした活動をしている。主な活動内容は、「定例研究会」「中学生チャレンジ」「土曜教室」「青年部」「親子合宿」「教育相談」などである。

また、JDDネット滋賀では、滋賀LD教育研究会が、JDDネット滋賀に参加している団体の中でほとんどが親の会であるが唯一の教員中心の発達障害支援団体であることから、コミュニティカフェでの就労体験(お仕事体験)の協力、教員対象の連続講座の協力、教育相談の協力、JDDネット滋賀主催の研修会の協力、JDDネット滋賀の研修室を借りて土曜教室や研究会の開催などを行ってきた。

筆者が、滋賀LD研究会の一員であり、JDDネット滋賀の理事の立場としてともに参加してみると、幼小中高の教員中心である滋賀LD研究会では、教育現場(目の前)の子どもたちを何とかしなくてはという思いから、発達障害のある児(者)の長期的展望にたった自立した生活を見据えての視点がおろそかになっていた。また、子どもを育てる主体者であり最終的な責任者である保護者のニーズが、きちんと受け止め

られていなかった。教員の立場では見えなかったものが、いろいろと見えてきたように思われる。そこで、滋賀LD教育研究会が今後JDDネット滋賀とどのように連携をしていくのか、そしてそのことが教育にどのように繋がっていくのかを考えてみたい。

(2) 脇阪 恭明(JDDネット滋賀 理事長) 「JDDネット滋賀の運営と発達障害者支援」

JDDネット滋賀の組織は、6つの団体(①滋賀県自閉症協会、②滋賀LD親の会トムソーヤ、③滋賀県ことばを育てる親の会、④湖雲倶楽部、⑤滋賀LD教育研究会、⑥発達障害者支援研究者ネットワーク)と個人(ADHD支援グループ滋賀クローバー 代表)で構成し、加盟団体から代表者、理事を選出し、理事会において事業活動の企画立案をし、運営をしている。また、顧問(医療、行政、教育、等)を置き、事業活動の指導・支援を頂いている。カフェと多目的室を設けた「ほっとSPACE草津」では、毎月理事会、加盟団体代表者会議を開催し、年間計画の立案、準備や加盟団体間の意見交換・情報交換をしている。地域社会には、就学前、学齢期、就労期等ライフステージにおける教育、福祉、医療、就労等の問題提起、課題解決に向けての支援のあり方について、講演会開催や調査研究を実施してきた。調査研究では「発達障害児・者支援サービス、アンケート調査」を行い、国の施策と実態報告に対して、県・地域レベルで国の施策が充分実施できていない実態を調査確認することができた。この結果を教育、福祉、就労等の関係機関に報告し、是正の働き掛けをしてきた。発達障害児者にとっては縦割り行政ではなく、福祉、教育、労働等行政機関が連携しての取り組みが不可欠であるため、定期的にJDDネット滋賀加盟団体は意見を纏め、福祉・教育・労働機関と意見を交換する場を設けて、当事者・支援者の理解と課題解決に向けて話し合っている。市議会議員、県議会議員、国会議員と国の発達障害者施策動向、地域での実態について情報交換、意見交換をもしている。JDDネット滋賀について広報や新聞等で紹介されると、非会員の方が学校生活、就労、家族・地域生活のこと、交流の場・友人が無いこと等、様々な相談にこられる。JDDネット滋賀は資金面に苦慮しており、理事からの借入金・寄付、企業及び加盟団体からの寄付により、ぎりぎりの所で活動している。経理・総務知識のない者が片手間で勉強して取り組んでいる状況である。我々の事業活動は、発達障害児・者、家族、支援者にとって無くてはならない有意義な活動であり、当事者を理解し支援することで、逆に社会貢献可能な有効資源を生み出すことにつながると考えている。

(3) 藤井 茂樹(滋賀医科大学) 「JDDネットの研修事業と関係機関との連携」

研修事業として、講演会・シンポジウム・連続講座等を実施している。医療分野では、小児医療と精神医療との連携、児童精神科医の役割、福祉分野では、障害者自立支援法と発達障害児者支援、教育分野では、特別支援教育と発達障害、労働分野では、発達障害者への就労支援である。それぞれの分野における研修だけではなく、教育と医療との連携、就労支援と生活支援、ライフステージに応じた支援の在り方等、関係機関が連携しながら発達障害児者支援を行うことの重要性を発信している。また、アメリカにおける早期教育の現状、就労支援状況を学ぶ場も設けた。教員対象に発達障害、特に学習障害のある児童生徒への教科指導、国語科・算数科の指導についての連続講座をも実施した。定員15名の3回連続講座である。国語、算数のアセスメントから具体的な指導方法、教材教具についてである。参加者は通級指導教室担当者、特別支援学級担任が中心で、通常学級担任はわずかであった。今回の研修においては、個別指導の在り方ではなく40人学級における個への支援である。今後、保育士・幼稚園教諭対象研修、中学校教員対象研修を実施する予定である。

将来の自立に向け、ライフステージに応じた支援が受けられるよう、発達障害児者支援に関わる人達への研修会を実施し、関係機関が連携することの重要性は理解されてきた。そのことにより組織間連携は進んだとはいえるが、支援する人の個人の専門性等の課題もあり、個々の事例が必ずしも的確な支援が受けられているとは言い難い。関係機関連携の中に、支援者の専門性と互いの専門性を理解し合える土壌づくりに早急に着手しないと、個々の支援が充実していかないのではないだろうか。

キーワード：JDDネット コミュニティカフェ 発達障害者支援